

重要無形文化財保持者に認定された本阿彌光洲氏(仕事場にて)



文化審議会(宮田亮平会長)は七月十八日、重要無形文化財(保持者(人間国宝)に刀剣研磨

は七月十八日、重要無形文化財(保持者(人間国宝)に刀剣研磨

認定するよう下村博文文部科学大臣に答申した。政府は九月にも告示する予定。

道弘、東京都大田区に七人を経て鍛造された刀剣を研磨し、優れた日本刀を世に送り出すとともに、国宝・重要文化財等に指定された数多くの刀剣の研磨を手がけ、有形文化財の保存にも寄与している。

その優れた研磨技術が評価されたことにより、昭和四十六年に研磨技術等発表会(現「刀剣研磨・外装技術発表会」)無鑑査となった。その後、刀剣に関する豊かな見識を生かし、平成五年以降、同発表会をはじめ、新作刀展覧会(現「新作名刀展」)、お守り刀展覧会、新作日本刀・刀職技術展覧会など、刀剣に関する多くの公募展の審査員を歴任した。

本阿彌光洲氏 略歴

昭和37年	國學院大学文学部史学科卒業
同年	本阿彌日洲師に師事
46年	研磨技術等発表会無鑑査(現在に至る)
平成5年	第46回刀剣研磨・外装技術発表会審査員(以後14回歴任)
6年	新作刀展覧会審査員(以後14回歴任)
12年	美術刀剣研磨技術保存会会長(現在に至る)
20年	東京都指定無形文化財(工芸技術)「日本刀研磨技術」保持者(現在に至る)
21年	一般財団法人日本刀文化振興協会(公益財団法人日本刀文化振興協会)理事(22年まで)
22年	公益財団法人日本刀文化振興協会理事長(現在に至る)
同年	第1回新作日本刀・刀職技術展覧会審査員(以後5回歴任)
同年	国宝 短刀 無銘 正宗(名物包丁正宗)、国宝 短刀 銘 則重(永青文庫所蔵)を研磨
24年	国宝 太刀 銘 則房、国宝 太刀 銘 正恒(ふくやま美術館寄託小松コレクション所蔵)を研磨
25年	国宝 太刀 銘 豊後国行平、国宝 刀 金象嵌銘 光忠(光徳花押)(永青文庫所蔵)を研磨



インタビューする伊波賢一氏(左)と本阿彌氏

「本阿彌家と言えば、刀とともに歩んできた長い歴史でよく知られています。本阿彌家と言えば、刀とともに歩んできた長い歴史でよく知られています。本阿彌家と言えば、刀とともに歩んできた長い歴史でよく知られています。」

本阿彌光洲氏が人間国宝に

刀剣研磨で5人目、刀剣界で12人目の快挙

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



2014.9.15 VOL.19
発行人 深海 信彦
発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
http://www.zentoshou.com/

第19号編集担当
赤荻 稔 飯田 慶雄 伊波 賢一 大西 芳生
大平 将広 川島 貴敏 嶋田 伸夫 清水 儀孝
生野 正 新堀 賀将 土子 民夫 網取 讓一
土肥 富康 服部 暁治 深海 信彦 松本 義行
冥賀 吉也 持田 具宏

特別インタビュー 研磨一筋の五十余年

重要無形文化財保持者(人間国宝)認定のマスコミ発表以来、何かとお忙しい本阿彌光洲先生だが、せひとも直接にお祝いを申し上げたい。というわけで、本阿彌家とは先代の日洲先生のごころから親しくされている伊波常務理事に仲介の労を執っていただき、今号担当委員の服部・持田の両名がインタビューに同行した。

この度はおめでとうございませう。本阿彌 ありがとうございます。

本阿彌 ありがとうございます。父に思いがけず認定をいただき、父に続くことができるので、本阿彌家の当主としてほっとしております。本阿彌家と言えば、刀とともに歩んできた長い歴史でよく知られています。

ところで、日本刀が今日まで、何度かの危機を乗り越え、守られてきたのはなぜかと思われませんか。

本阿彌 それはやはり將軍家や大名が貴重な働きをされたからでしょう。御刀を大切に思い、鑑定・研磨・保存に大きな責務を果たしてくださったと思います。そして明治・大正・昭和と、それらの美風が日本人の趨勢として受け継がれてきたことだと思います。

刀剣・書画・骨董

和敬堂

土肥豊久・土肥富康

〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511

http://wakeidou.com/

美術刀剣・刀装小道具商

やしま

齋藤雅稔・隆久・隆洋

刀装小道具通信販売目録「やしま」
年間10回位発行予定
購読料10回 2,000円(郵便切手可)

〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

金工・刀身彫刻・修理・諸工作式

柳匠堂

柳村宗寿

岡山市北区平和町二一八
TEL 〇八六-二二三-二二二九
TEL 〇八六-二二三-二二二九
工房 岡山市北区磨屋町七二二
TEL 〇八六-二二三-二二二九
FAX 〇八六-二二三-二二二九

刀剣古美術

三峯美術店

町田久雄

埼玉県秩父市野坂町一十六一
西武秩父駅連絡通路町久ビル内
TEL 〇四九四-二二三-三〇六七
FAX 〇四九四-二二三-三〇六七

美術刀剣、小道具、武具類の
売買、加工及び御相談承ります

大阪刀剣会

吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二一七一
TEL 〇六一六六三一-二二二〇
TEL 〇六一六六三一-二二二〇
FAX 〇六一六六四四-五四六四

出店者一覽

(順不同)

氏名	屋号	氏名	屋号
飯塚 賢路	刀剣・古美術 飯塚	深津 尚樹	尚佳洞
深海 信彦	(株)銀座長州屋	稲留 修一	(株)舟山堂
瀬下 明	丸英美術刀剣店	松本 富夫	(株)美術刀剣松本
福岡 勇仁	(株)三明貿易 刀剣徳川	綱取 讓一	福隆美術工芸
黒川 精吉	霜剣堂	佐孝 宗則	(株)紀の国屋
村上和比子	(株)コレクション情報	平子 誠之	イー・ソード
川島 貴敏	銀座 泰文堂	栗原 春吉	(有)栗原金庫製作所
簾谷 三男	刀剣 はたや	五十嵐啓司	(有)濃州堂
齋藤 雅稔	やしま	嶋田 伸夫	古美術刀剣 山城屋
朝倉 忠史	(株)永和堂	冥賀 吉也	つるぎの屋
大西 敏之	刀剣 武蔵野	飯田 慶雄	飯田高遠堂
柴田 和男	(株)日本刀 柴田	高島 吉童	刀剣 高吉
金丸 十三	(株)金丸刀剣店	簾谷 大輔	日本刀 簾谷
鈴木 雅一	平成名刀会	服部 暁治	服部美術店
杉浦 昭宏	刀剣杉浦	森野 幸男	刀剣ギャラリー 樹林
藤田 一男	神田 藤古堂	清水 敏行	大宮 清水商会
清水 儀孝	(株)晴雅堂 清水	松川浩一郎	古美術 成蹊堂
芦澤 一幸	静心堂 芦澤	大西 博	美術刀剣・大和
柴田 光隆	(株)刀剣柴田	吉井 唯夫	大阪刀剣会 吉井
木村 義治	木村美術刀剣店	猿田 慎男	(株)むさし屋
安東 孝恭	(株)安東貿易	大西 康一	大和美術刀剣
生野 正	銀座誠友堂	玉山 真敏	玉山名史刀
田中 勝憲	(株)城南堂古美術店	土肥 豊久	(株)和敬堂
齋藤 恒	銀座 盛光堂	笹原 俊和	阿雲亭 AUNTEI
杉田 侑司	刀剣 杉田	保野 栄三	(株)中野古銭
大平 岳子	勝武堂	佐藤 均	刀剣佐藤[倉敷刀剣美術館]
熊倉 勇	刀剣 大東美術	新堀 孝道	新堀美術刀剣
田名網 守	田名網美術刀剣	山本 一郎	刀友会
大西 孝男	大西美術刀剣	松田 通夫	松田刀剣
草分 一雄	古美術 草分堂	松原 正勝	南紀刀剣店
横山 忠司	札幌 横山美術	三浦 優子	優古堂
ヒューズ・ロバート	慶長堂	伊波 賢一	(株)日本刀剣
田澤 二郎	(株)日宝	村上 昌弘	刀剣古美術 京都むらかみ
中永 潔	(有)聚楽	今津 敦生	儀平屋
坂田 哲之	刀剣 坂田	高橋 歳夫	真玄堂
持田 具宏	古美術もちだ	小島 昇	秀美堂
中川 正則	刀剣美術 中川	黒川 宏明	筑前刀剣堂

第27回「大刀剣市」開催迫る

二十七回目を迎える「大刀剣市2014」は、産経新聞社、フジサンケイビジネスアイ両社の後援をいただき、十一月一日(出く三日(月・祝日)、東京・新橋の東京美術倶楽部で開催されます。

全国から七十四組合員の出店があり、例年同様の賑わいを期待しています。

三階重文室では、NHK大河ドラマにちなんで「黒田官兵衛

とその時代の刀工達」と題し、名品・優品を展示します。

また、四階会場特別ブースでは「我が家のお宝鑑定会」を連日無料にて開催します。ご自宅にある自慢の名刀や珍刀、甲冑、鐔などをお持ちください。売却希望の方は、買い取り相談もいたします。

今年も創意工夫して、皆さまをお待ちしています。なお、カタログは十月初旬完成予定です。

■全刀商の活動 「大刀剣市」カタログ制作会議

「大刀剣市」では、その年の刀剣類出品カタログを併せて、入場料をいただいております。

重要美術品・特別重要刀剣をはじめとする優品を所載した大刀剣市カタログは、愛刀家の方々に好個の資料としても活用されており、まさに保存版と言えます。

そのカタログ制作には、二十名近いメンバーで構成される制作会議が当たります。早くも七月中旬から作業は始まり、八月上旬にかけての三回に分けてカタログ登載品を、出店する各組合員よりお引き受けし、撮影します。

今回の集荷は、清水専務理事、

服部専務理事、冥賀亮典さん、服部一隆さんと筆者が中心となって担当しました。

以前、経験豊富な先輩から、大切な品物を預かる心得として、次のようなことを教えられました。丁寧な商品を扱う、特に移動の際は十分気をつける、記録を取る際は私語を慎む、写真撮影とカタログ編集がスムーズに行えるよう必要な情報は集荷作業中に集める、できる限り出店者の希望に沿うよう心がける……。

常々心がけてはいても、カタログが仕上がると、商品の質感や色合いなどに一〇〇パーセント満足はいかないところも出てまいります。難しいものです。

お預かりするのはしばしば交換会の折ですが、記録を取っている際に、預かり品を断りなく手に取り、ご覧になる方がいます。写真撮影のために持参された高価な品なので、その場にいる出品者の許可を得てから拝見してほしいと願っています。

お預かりする刀剣や刀装・刀装具類は高価なために、撮影を経て無事に返却するまでは、神経を使う作業が続きます。破損、紛失、



大刀剣市カタログの編集風景



盗難などの心配は、集荷作業を何度経験しても変わらないものです。特に大刀剣市実行委員長である清水専務は、この期間、心が休まらないと思います。

掲載品は前もって申請書に必要な事項を記入し、鑑定証などのコピーとともに、商品に添付してお預かりしていただきますが、私たち担当者への信頼感からか、掲載内容などはすべてお任せで、商品だけをお持ちになる方が毎年おられます。

比較的集荷数の少ない初回ながら、そのような方への対応も不可能ではありませんが、ちょっとした行き違いをなくす上でも、なるべくご記入をお願いしたいものです。写真撮影は、刀剣、刀装具類、甲冑とそれぞれに別のカメラマンと別のスタッフで行っています。担当委員の方々はボランティア精神で、毎年暑い中、交代にて立ち会ってもらっています。

その後は、紙面構成の編集会議、編集作業を経て初校・再校・三校と続き、二カ月半に及ぶカタログ制作は閉幕を迎えます。

たかがカタログ、されどカタログ……。出店者の皆さんの期待に応え、愛好家の方々の肥えた目に堪えるには、半端な努力と労力でできるものではないのです。

とはいえ、今後は若い組合員の皆さんに業務の引き継ぎをしていくことが、組合の未来にとってきわめて重要だと、清水専務らとともに考えております。(嶋田伸夫)

←前ページより続く

入門されたころのお話をお聞かせください。

本阿彌 私は男四人兄弟の三番目ですが、子供のころから手仕事が好きで、私が父の仕事を経営することは暗黙の了解でした。高校生のころから仕事場に入り、いろいろやっておりました。父から、仕事について強制されることはありませんでした。この仕事は結局、最後は私がやらなくてはならないと思っていましたから、うまく言わなかったのかもかもしれませんね。

——父であり、師弟でもある関係に深い相互の信頼感があったということでしょうか。

——だいたい以前のことになります。日洲先生のご活躍がドキュメンタリー番組で放映されたことがありました。確か、光洲先生も登場されていましたね。その中で、日洲先生が昔お研ぎになられた長光に再会され、しばらくじっと鑑賞した後、ささやくように御刀に言葉をかけておられました。とても感動的なシーンでした。

本阿彌 林原美術館を訪ね、国宝の長光に再会したときのことですね。私もよく覚えております。国宝や希代の名刀を研いだときは、また格別の印象がありますからね。——光洲先生にとって、特に忘れることのできない御刀には、どんな名刀がありますでしょうか。

本阿彌 若いころ、父について研いだ御刀、一人前になって任せられた御刀、先達の研いだ御刀にあらためて取り組んだときなど……思い出はいろいろあります。最近では、国宝の二振があります。一つは則房の太刀で、刀装具美術館から小松コレクションに移ったもの



左から服部暁治氏・本阿彌氏・持田具宏氏

古銭・切手・刀剣 売買 評価 鑑定
(株)城南堂古美術店
 代表
田中 勝憲
 〒153-10051
 東京都目黒区上目黒四-3-110
 TEL 03-3711-0167
 03-3711-0168
 03-3711-0169
 FAX 03-3711-0167
 03-3711-0168

——本日はご多用の折、本当にありがとうございました。

(文責/持田具宏)



風向計

其之十四

深海 信彦

刀剣業界は今、一服の感があ
ることは多くの人が認めること
であろう。あの厳しいリーマ
ン・ショックの余波から立ち直
り、また、交換会不払い事故の
連鎖も一段落し、ひとときの平
穩を迎えているところである。
願わくばこの秋から冬、さら
は来年にかけて景気の回復基調
が持続し、わが業界にも遅れは
せながら恩恵に被れる時節が到
来してほしいとの期待感を抱い
ている人も少なからずあろう。

そこで、ここ数ヶ月の業界景
気見通しを予測してみよう。

まず、足元の動向を見てみる
と、前述のように交換会におけ
る信用取引の懸念要因もある程
度払拭され、出品される刀剣な
どの品薄状況は続くものの、業
者個人のマインドは比較的落ち
着いていると言える。小売りに
関しては、増税の影響は少な
く、売上高は伸びないまでも、
いわゆる増税前の駆け込み需要
の反動減などは少なく、これか
ら秋にかけては昨年並みの販売
額が期待できるというシナリオ
も描けよう。

また、全国に散在する刀剣愛
好家の所有する刀剣等も、世代
交代の時期を迎えるたびに売り
物として世に出るため、あらか
も再生産されているが如く、品
物の全体量は減少することなく
商品の枯渇の心配は少ない。

肝心な相場はと見てみると、
極端なデフレ状態から脱却して
二年近くなる今、ひとまず安定

しており、今後しばらくは相場が
下がる材料はなく、むしろ取引
価格は上昇傾向にあると言える。

もちろん、今年三月十五日発
行の第十六号本欄でも触れたよ
うに、重要刀剣等が昔日の取引
相場に戻ることは指定数と取引
価格との「相対的ギャップ」の
関係上あり得ない。保存・特別
保存・重要・特別重要といった

公益財団法人日本美術刀剣保存
協会(以下協会)の鑑定・指定
は今後も相場の指針となるもの
として重要度を増すことは間違
いないであろう。ほとんどすべ
ての刀剣等はこの審査制度によ
って価値と価格が支えられてい
ると言っても過言ではなく、今
後の価格上昇のメドとなるのも
これらの鑑定・指定と言え得る。

さて、このような安定的な見
通しに当たっては、当然のよう
に前提条件もある。

その第一は、何と云っても日
本国内および世界各国の政治・
経済の安定であろう。リーマ
ン・ショックやサブプライム問
題、あるいはギリシャやスペイ
ンの信用不安など、われわれの
あずかり知らない所に端を発し
た不況が、いわれないないわれ
われの身に降りかかった先の大
不況のようなことは例外として
も、安倍政権による経済の諸策
が奏功し、回復基調が継続する
ことが必須でもあろう。

第二は、業界自身の安定であ
らう。現在の刀剣業界は刀剣商
組合を中心とまとまっております。

業歴の長い刀剣商ほど小異を捨
てて大同につく自信と知性を身
につけており、それぞれの持ち
場で力を発揮している。しか
し、突発的な交換会等での債務
不履行だけは予測が困難で、こ
のようなことが同時多発的に惹
起すれば、業界は実質的にも
またマインドの点においても急
速に落ち込む。従って、このよ
うな事故が起こらないことが先
行きの透明性においては絶対条
件ともなり得るのである。

第三として挙げられるのは、
業界の取引に関連の深い他の諸
団体、あるいは時に行政も関係
する出来事であろう。すなわち
今回、研磨技術部門で本阿彌光
洲師が重要無形文化財保持者に
認定された慶事が、刀剣業界全
体の追い風となる一方、規模の
小さいわれわれの業界は些細な
ことでたちまち失速してしまう
懸念もある。幸いに、刀剣審査
に当たる協会の経営は盤石で、
最も信頼に足る審査機関として

不動の評価を得ていることは最
大の追い風であり、一方の公益
財団法人日本刀文化振興協会の
かつて例を見ない精神的な対外
啓蒙活動も刀関係者にとっては
ありがたい援護である。この両
団体と組合との三者が協力し合
えば、刀剣界の安定度はいやが
上でも向上するはずである。

一方、依然として解決の糸口
さえ見られない刀剣等の登録証
の所有者変更手続きの不合理さ
は、時としてわが業界にとって
は頭の痛い逆風ともなり得る。
しかも、われわれの引き起こし
た問題であれば責任の取りよう
もあるが、過去の行政のミス、

つまり誤字・脱字、寸法や反り
の計測間違い、入力ミス等によ
る記載内容の相違による変更届
の不受理などは、われわれでは
解決できない。このことだけで
高額商品取引の破談や、業者自
身の信用も損なうといった事態
に至ることもなり、何とか解
決に向けて当局との話し合いの
テーブルに就くことも業界の安

NEWS & TOPICS

第七回刀職技術者研修会を開催

第七回となった刀職技術者研修
会は公益財団法人日本刀文化振興
協会と坂城町の展示館の共催で、
第五回新作日本刀・研磨・外装
刀職技術展覧会「日本刀の匠た
ち」の展示期間中の八月二十二
二十四日に、鉄の展示館内コミュ



第7回刀職技術者研修会の研修生と講師ら

ニティーセンターと宮入鍛錬道場
で全刀職にわたり実施しました。
展示と研修の両方を見られるこ
ともあり、長野県での開催にもか
かわらず多くの方々にご来館い
たしました。お客さまには、展示
品の説明と各部門の研修の内容や
技術的なことについて細かく
説明することができ、刀職技
能の継承と次世代の人材育成
の大切さをご理解いただけ
たことと思います。

今年研修部門の研修生は
少なかつたものの、他の部門は
初参加などがあり、それぞれ充
実した研修内容となりました。
初日は、宮入刀匠のところ
で毎年実施している坂城町伝
統産業の社会学習として、小
学四年生の研修見学を受け入
れました。子供たちは日本刀
を怖がりたりしません。率直
な質問が飛び交い、砥石や道
具に興味を示したり、「刀を
作ってみたい」「弟子入りし
たい」などと話す子がいた
り、反応もさまざまです。純
粋無垢な子供たちに、場内の
空気も和みます。彼らの深層
心理の中に、少しでも日本刀
の良い印象が残ってくれば
と願いたくなります。

定を維持するためにはなくては
ならないことである。
このほか、航空機、宅配便、
保険会社、警察署など、商売を
取り巻く環境に不利益となる事
件が起きないことも、不況を招
かないこの条件ともなる。

以上見てきたような前提条件
の下に業界の安定は続くことら
れるが、第二に挙げたような内
容である。

平穩な時代こそ、備えを強
固にする英知を結果させたいも
のである。

TANAの作者かまたきみこさ
んと角川書店の担当者の取材があ
りました。授賞式にもご出席い
ただき、日本刀や外装について現物
で確認し、刀匠・研師・鞘師・柄
巻師・白銀師らの仕事を子細に観
察するなど、漫画創作上の研鑽を
積んでおられました。

研修にはごく初心の方、自分の
技術を少しでも高めたい方、趣味
としてとらえている方などさま
まな立場で、ご参加いただいで
います。また、中堅の実力のある方
が研修で力量を見せることによ
り、初歩の方々に良いお手本とな
ったり、講師を含めて交流するこ
とで互いに刺激し合うなど、それ
がコンクールでの良い結果にも結
びついています。

展覧会では出品受付、審査、展
示作業、授賞式、展不品の手入れ、
研修、撤収返却と、関係者が東京
から毎月のように足を運びました。
毎週末のイベントは宮入刀匠はじ
め、その門弟と地元の方々で実施
していただきました。今回は、公
開研修と展覧会が同時に見られる
という前例のない試みでしたが、
遠路国内外より足を運ばれた皆さ
まには心より感謝申し上げます。
来年も同所においてほぼ同時期
に開催が予定されていますが、よ
り充実した展覧会と有意義な公開
研修となりますよう、一層努力し
てまいります。(公益財団法人
日本刀文化振興協会)

刀剣・小道具・甲冑武具
目白 **飯田高遠堂**
代表取締役 飯田慶久
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
<http://www.iidakoendo.com>

(株)美術刀剣松本
松本 富夫 義行
〒278-0043 千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122
FAX 04-7122-1950
www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
(株)日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

銀座 **泰文堂**
〒104-0061 東京都中央区銀座4-3-11
松崎煎餅ビル4階
(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏
TEL 03-3563-2551
FAX 03-3563-2553
フリーダイヤル 0120-402037
<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 **090-8845-2222**
代表者 高島吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

刀 剣 界

210 土方歳三資料館 歴史散策の中心でファンを魅了

私が資料館に関連する印刷物の仕事をいただき、初めて土方歳三資料館を訪れたのは、十三、四年ほど前のことです(当時は印刷業だった)。館長は歳三の兄・土方隼人義殿から数えて六代目の現館長・愛さんのお母様である五代目陽子様でした。

そのころから何かとお付き合いさせていた縁で、資料館創設から今年でちょうど二十周年となることもあり、当組合機関紙にぜひともご紹介しようと思



土方歳三像と土方愛館長

材をお願いしました。この二十年ほどで、東京多摩地区の開発には目覚ましいものがあります。都市化が進む一方で、史跡や歴史・文化施設も整備されています。特に目玉となっているのが地元ゆかりの新選組であり、中でも熱烈なファンを集めるのは日野の土方歳三生家に設立された土方歳三資料館です。

歳三の生家はもとと土方家墓所である石田寺の北側、稲荷森の東後方にありましたが、歳三が十二歳だった弘化三年(一八四六)、多摩川の洪水に遭い、母屋などを現在の場所へ移築しました。

その古い家屋は平成二年に建て替えられましたが、生家の保存史料公開を望む各方面からの要望に応じて、同六年、住居の一室に歳三の遺品などを展示するなどし

資料館として公開するに至ったのです。その資料館も最初は小規模なものでしたが、平成十七年に改築され、現在の立派な資料館として生まれ変わりました。

展示品は、歳三佩刀として有名な和泉守兼定、池田屋で使用したと伝わる鎖帷子、歳三の内面を知る発句集など、約七十点。土方歳三ファン必見のお宝がいっぱいあります。幕末の資料がこれほど充実している施設は全国でも数少ないと思われま

また、少年時代の歳三が庭に植えた矢竹、相撲のぶつかり稽古をした大黒柱など、生家ならではの遺物も保存されており、歳三の息吹に触れることができます。

現館長の土方愛さんは、青梅マラソンにも参加して、一〇キロ時には三〇キロを走り込むという活発な女性です。訪問者を笑顔で迎えてくれ、質問にも気さくに応じてくれます。

「資料館を運営していると、全国からいろんな業界・職種の方々がいらして、私も勉強になるんですよ。歳三さんは俳句をやっていたので、俳諧の専門家もお見えになりました」と、こやかに話す愛さんは、私が個人的に大絶賛する美人館長です。



土方歳三資料館の展示風景

かりの史跡もあり、土方歳三資料館は今後も日野の歴史散策コースの中心であり続けることでしょう。館内では歳三遺愛の和泉守兼定の押形をはじめ、刊行物や各種グッズも販売されており、訪問者を喜ばせてくれます。

(生野 正)

■土方歳三資料館 11-9100
21 東京都日野市石田二丁目三
開館は毎月第一と第三日曜日十二時
十六時。詳細はHPに
<http://www.hijikata-toshizo.jp>
多摩モノレール方願駅より徒歩二分。または京王線高幡不動駅より徒歩十五分。中央高速国府中ICより車で五分。ただし専用駐車場はないため、周辺の有料駐車場を利用のこと

平成十二年には多摩モノレールが全線開通し、交通の便も格段に向上しました。高幡不動、石田寺、日野宿本陣など、周辺には歳三ゆ

烈公は有名だが順公は…

私が出会った珍品・優品

赤荻 稔

「順公」という名前をご存じでしょうか。

私が初めて順公に出会ったのは、三十年ぐら以前のことであろうか。知り合いの道具屋さんが「旧家から預かってきたのだけれど、買ってほしいか」と、平造

り脇指を持参した。多少傷んでいるが拵が付いており、鏢はなく、葵紋の縁が付いていた。中身は一尺二寸ぐら、全体に薄錆があり、刃文は見えるが鍛えはよくわからない。中心には花押だけが刻されている。

直胤系の誰かだろうと思いつつ値段を聞いたら、とてつもない金額を提示されたので、丁寧に断りしてその場は終わった。

それから半年ぐらいたったころであろうか、水戸刀を調べるために関連の資料を見たら、思わず目を見張った。全く同じ花押の作品があるではないか。「順公」の作である。

タメもとすぐに道具屋さんへ電話すると、まだあるとのこと。今度はこちらから伺い、相手の言い値で譲り受けた。多少の不安もあったので

目利きの愛好家に電話をしたら、すぐにやってきて強引に持って



花押のみ刻された順公作の中心

あったので、目利きの愛好家に電話をしたら、すぐにやってきて強引に持って

順公が私の手元にあったのは、ほんの数時間であった。順公とは、水戸徳川家十代藩主・徳川慶篤の諡(贈り名)である。九代藩主斉昭(烈公)はあまりにも有名であるが、慶篤はほとんど知られていない。慶篤は斉昭の長男で天保三年(一八三二)の生まれ。弘化元年(一八四四)斉昭の隠居に伴い、十三歳で藩主となる。明治元年(一八六八)水戸にて没す。三十七歳であった。なお、実弟慶喜は一橋家の養子となり、後に徳川十五代藩主となった。

烈公の相手鍛冶は勝村徳勝・直江助共らであるが、順公の方は関内徳宗あるいは横山祐光あたりであると言われている。烈公作は刀がほとんどであるが、順公の場合は長いものがほと

んどなく、私が経眼したのも一尺一、二寸の平造りのみである。地元水戸でも残念ながら、順公について詳しいことはわからない。作品数は少なく、刀剣関連書には全くと言っていいほど記載されていない。

私は連良く四振の順公に巡り会い、入手しています。いずれも平造りの小脇指です。昨年縁あって入手したものは、徳宗の出来を彷彿とさせ、小板目肌立ち、互の目乱れのすこぶる良いものでした。皆さんもどうかで見ないながら、作者が明らかでないために見過ごしている可能性があります。僭越ながら、この記事を書きかけに認知度が少しでも増し、一振でも多くの順公が発見されれば、同郷の一人として幸せです。

ふるさと自慢 第10回 ●新潟県長岡市 フェニックスに復興の祈りを込めて

土肥 富康

長岡といえば、今や花火で全国的に有名になりました。日本三大花火大会に選ばれ、プロの花火師が選ぶ花火ランキングでも全国で一位を獲得するなど、日本を代表する花火大会であります。

毎年八月一〜三日に長岡祭があり、その中の二日と三日に花火が上がります。この長岡花火は、太平洋戦争時の長岡空襲でなくなった方々の慰霊と、長岡の復興を祈願して打ち上げられたのが始まりです。

長岡では、昭和二十年八月一日の午後十時三十分から二日の午前〇時十分の間に空襲を受け、市街地の八割が焼失、千四百七十人余りの命が奪われました。私も空襲後の上空写真を見たことがありますが、それは瓦礫に覆われた、見るも無残な光景でした。今も脳裏に焼き付いています。

放浪の画家・山下清も花火好きで知られていて、長岡の花火に魅了された一人です。名作「長岡の花火」は有名で、漆黒の夜空に大

小色鮮やかな花火が咲き乱れるさま、信濃川の河川敷を埋め尽くした観衆、水面に映る花火まで、ちぎりと丁寧に描いています。花火に感動した山下画伯は、作品とともに「みんなが爆弾なんか作らないで花火ばかり作ってたら、きっと戦争なんて起きなかったんだな」と言葉を残しています。

雄大な信濃川から上がる美しい花火は、皆の心を癒しました。そして見事に戦後の復興を遂げた長岡ですが、平成十六年には新潟県中越地震が起こり、深刻な被害を受けました。特に山間の方は地盤が崩れ、山古志などに壊滅的な被害が出たのは皆さまの記憶にもまだ鮮やかなことと思います。

そこから皆で復興に立ち上がり、翌年の長岡花火では復興の願いを込めて、「フェニックス」という花火を上げました。この花火は、平原綾香の「ジュビター」の音楽に合わせて七カ所から尺玉が上がるワイドスターメインです。この音楽と花火のコラボレーションが皆に感動を与えました。



花火と音楽のコラボレーション「フェニックス」

それから毎年フェニックスを上げることになり、それが名物となっていて、今では長岡花火の看板となつています。そして花火から元気をもらい、震災から復興を遂げました。

皆さまもぜひ一度、長岡の花火大会にお越しください。新潟の米、酒、海の幸を味わい、花火を見てくだされば、必ずや長岡ファンになつていただけると思います。

刀剣商リレー訪問 18 服部晝治さん・一隆さん

百年以上も続く老舗中の老舗

東京メトロ日本橋駅から徒歩三分、JR東京駅や地下鉄京橋駅・宝町駅からでも五分という圧倒的にアクセスの良い立地に、老舗刀剣店がある。

周知の通り、服部美術店の歴史は古く、刀剣業界では老舗中の老舗と言っても過言ではないだろう。

初代店主の服部伊三郎氏は、幕末の刀剣店、村田屋に婿養子として入る。明治の初年、伊三郎氏が店を継ぎ、屋号が服部刀剣店となる。その後、時代の流れとともに幾度かの屋号の変更があり、現在の服部美術店となった。戦時中には、軍の要請により鍛刀所も運営した。

店舗は現在の日本橋に至るまで、神田柳原(現岩本町)に始まり、同淡路町、大阪府上本町(関東大震災による疎開)、静岡県三島市、同沼津市、そして再び都内に帰って銀座・歌舞伎座近くへと、変遷した。



服部美術店 6代目の一隆さん

店内に入ると、決して広くはないが、実に多くの商品が並んでいる。現店主の晝治さんは昭和二十二年生まれ。五代目である。昭和の終わりごろには、よく各地を巡って刀剣フェアや百貨店での刀剣展を開いた。現在は全国刀剣商業協同組合の常務理事を務める。

「お店のモットーは？」と伺うと、「そんな大したものないですよ。あっちの花壇に花を咲かせよう。と一生懸命水をやり、手入れをしたけど、そこには一向に花は咲かず、かえって全然別の所から花が咲いてきた、というのがわたしのビジネス経験ですね。それと、知らない新しい街へ行って、イベントを立ち上げるのがビジネスの醍醐味でした」

「どこからお客さまが来るかわからないこの商売では、ついつい保守的になってしまいがち。筆者のような若手であれば、もっと動かねばと感化された。」

六代目になる子息の一隆さんは、昭和五十年生まれの三十九歳。学生時代から各地で行う即売会などの手伝いを通して、刀剣類に親しんでいた。いったんは一般企業に就職したものの、歴史への深い興味もあって、自然とこの道に惹かれたという。

■服部美術店 11-103-0002
7 東京都中央区日本橋三丁目二番一
吉野ビル二階 ☎03-3327-4511
http://www.katana-lattori.com/main.html

若者広場 16 本物を見極め、本質をとらえたい

阿部聡一郎(研師)

高校卒業後、大学に通いながら研師である父の元に弟子入りし、今年で九年目となりました。

研師の息子という点、小さいころから家業を継ぐように決められていたのか、刀剣の世界に触れながら育ったように言われることがあります。実際、仕事場にはいつも刀があり、博物館などの刀の展示にも何度か連れていってもらったりのため、同じ年代の子供よりも刀に馴染みがあったとは思いますが、父は「自分のやりたいことをやればいい」と、仕事を継ぐように強制することは全くなく、自分もそれほど刀や研ぎに興味を持っていないわけではありませんでした。

研師になることを初めて真剣に考えたのは、高校三年生となり進路を決める時期になってからでした。人と関わりながら進める仕事よりも、一人でじっくり取り組む仕事の方が自分には合っていると思いついて、父に頼んで、仕事の手伝いをしながら、フレックススタイルで大学に通うという修業生活を四年間続けました。

父の教えは仕事についてだけでなく、刀の鑑定や知識、作法、日常の雑事、他者への気遣いにも境界線のない、美術品以外にも魅力的な商品がさまざまな並ぶ。服部美術店で刀を買ったことも、高島屋でお土産を買って帰れば、奥さんの機嫌を損ねないかもしれませんね。(大平将広)



名刀会20周年記念大会

名刀会二十周年記念大会開く

名刀会は、今から二十年前の平成六年一月二十八日に「刀美会」として改組し今日に至るという。

前身の刀美会は、現在組合が所有して事務局を置く新宿のマンションの購入費用を、歩金で支払っていくという重たい役目を担って発足した。それは折からの、いわゆるバブルの崩壊に遭い、資産価値は

20周年を迎えた名刀会

下がる一方で残債は残るといふ厳しい現実の中で、会運営であったと聞く。

会には高橋歳夫氏が代表会主となり、荒勢英一氏・飯田一雄氏・城所稔氏・黒川精吉氏・服部晝治氏・深海信彦氏・眞賀吉也氏ら八名が発起人となり、さらに朝倉万幸氏と齋藤光興氏の両名が加わった。刀美会発足の意義は、刀剣業界の健全性・継続性を保ち、交換会の発展を使命としており、十年をかけてその趣旨を全うし、刀美会の役目を終えたという。

及びました。私は、研ぎはもろろんのごと、刀についても全くの素人だったので、仕事を覚えることと学業との両立は大変でしたが、自分で選んだ道だったので、やめたいとは思いませんでした。そして、できることが増えていくにつれて、次第に仕事の楽しさや刀の素晴らしさを実感するようになりました。

何より、父の仕事に対する真摯で真っ直ぐな姿勢と、父の仕事が人に感動を与えられることを毎日隣で見続けたことが、仕事を続けること、本質とは何か

というのを常に考えながら、これからも努力し続けていきたいと思えます。

■一筆啓上
阿部聡一郎さんは、昭和六十一年生まれの二十七歳。氏を一言で表すとすると「温厚篤実」な人といったところか。



阿部聡一郎さん(右)と父・一紀氏

ブック・レビュー BOOK REVIEW

名鐔百余点が圧巻、手に取るように見える『鉄鐔—「鉄の華」展作品集』

公益財団法人日本美術刀剣保存協会

南北朝期から明治初年にかけて製作された鉄鐔のみを掲載した一書が、六月三十日に発行された。

この作品集は、公益財団法人日本美術刀剣保存協会が昨年十月二十六・二十七日の二日間、新宿・京王プラザホテルにて全国大会を開催した折、その一環として刀剣博物館に展示した鉄鐔(鐔一四点、刀装二点)をまとめたものである。

十章に構成され、わかりやすく分類されている。

第一章は古刀匠・古甲冑師・応仁・鎌倉・京透・古正阿弥を取り上げ、二ページに一点、余白も十分あり、ほぼ原寸大のカラー写真は実物をそのまま見ている感すらある。おのおの解説は刀剣博物館主任学芸員の久保恭子氏が執筆し、見どころなどを簡潔に書き添えている。ま



鉄 鐔

—「鉄の華」展作品集—

Iron Tsuba
The Works of the exhibitor "Kamigane no hana"

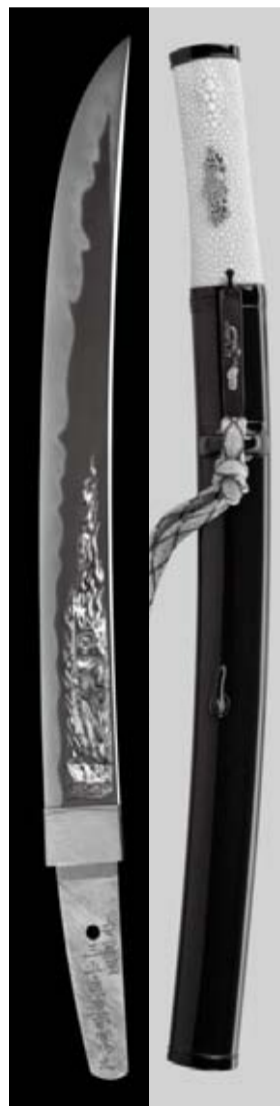


この作品集は総ページ一五一、A B判、ハードカバー装の豪華本である。それでいて、価格も求めやすい。刀剣博物館二階で販売している。問い合わせは03-3337-9111(三三六)へ。(冥賀吉也)

NEWS & TOPICS

第九回「お守り刀展覧会」入賞者決まる

今年で九回目を迎える「お守り刀展覧会」(全日本刀匠会主催)が本年度は備前長船刀剣博物館・大阪歴史博物館の二会場で開催さ



れます。それに先立ち七月二十九・三十日に、後援の文化庁の担当官立ち会いの下、厳正に審査が

文部科学大臣賞の三上貞直氏の作品

Table with award categories (総合の部, 刀身の部, 外装の部) and winners. Includes names like 孝徳, 明珍, 川崎, 河内, etc.

趣味の5 うんちく 那須を滑る 瀬下 明 (丸美美術刀剣店)

私の趣味はいろいろです。映画鑑賞や温泉旅行、家庭菜園、ハイキングに高原へ出かけること、そして冬になるとスキーです。それらの中でも、最近特にスキーにハマっています。

とはいえ、六十歳を過ぎた老体スキーヤーには、体力的にかなりしんどいのも事実です。それでもあの爽快感が忘れられず、また滑ってしまつたのです。



白銀に輝く那須連山

庭木の手入れと家庭菜園は、今まま



伝統工芸木炭生産技術保存会の皆さん

昨年(同)は松炭十四トンを生産し、全国の刀匠に出荷した。また駿河炭生産の研究にも着手、成果が期待される。

執り行われました。総合の部十四点、刀身の部三十六点、外装の部十四点、招待出品五点と、昨年を上回る出品があり、昨年度より最高賞の文部科学大臣賞が交付され一層の注目が集まる中、本年度は総合部門第一席の三上貞直刀匠が受賞。特別賞の日立金属賞と駐日ポーランド共和国大使賞の両賞は川崎平刀匠が受賞。新人賞は上山輝平刀匠が受賞されました。

NEWS & TOPICS 木炭製造が選定保存技術に

文化審議会(宮田亮平会長)は七月十八日、木炭製造を選定保存技術に選定し、伝統工芸木炭生産技術保存会(坪内哲也代表)を保存団体に認定するよう文部科学大臣に答申した。

選定保存技術とは、文化財保存に不可欠な文化財の補修技術、それに用いられる材料および道具の製作技術などを指している。文化財保護法では、選定保存技術を選定することにも、その技を保持している個人または技の保存事業を行う団体をそれぞれ保持者および

同保存会は全日本刀匠会の有志と、岡山県久米郡美咲町の大山炭焼クラブのメンバーで組織。平成十八年以来、木炭製造や伝承者養成に取り組んできたが、昨年、保存会を設立し、今回の選定・認定に結びついた。

巡回展となる大阪歴史博物館では、お守り刀ファッションショーや日本刀フォーラム、入館者が選ぶ作品人気投票などの企画があり、一万五千人が訪れた前回展を上回る集客が期待されます。

備前長船刀剣博物館 九月十九日(金)〜十月二十六日(日) 大阪歴史博物館(八ページに詳細) 十一月一日(土)〜十二月二十三日(火) (月山貞伸)

イベント・レポート

江戸東京博物館

「軍師官兵衛」展で黒田家ゆかりの名刀を見る

五月二十七日から七月十三日まで、江戸東京博物館で「軍師官兵衛」展が開催された。

黒田孝高如水こと官兵衛に関する展示は各所で行われているが、展示品でいえばこの会が一番であろう。しかしながら小生は、文書や書き付けなど数多くの展示品はさておき、刀剣類に限定して鑑賞してみた。

まずは、名物「安宅切」備前長船祐定、大永二年八月日、(金象嵌)あたき切脇毛落。

これは天正九年(一五八一)に黒田官兵衛が阿波から淡路へ海を渡り、三好一族の安宅河内守の居城由良城を攻め、このときに官兵衛が剛強の勇士、安宅河内守を自ら討ち取った刀であるところから名づけられた。

刀身は末備前の上げ身だが、拵の方が「へし切長谷部」と同じであり、桃山時代を反映したものである。そちらの方が重要文化財に指定されているのだが、展示されていない。何故だか、よくわからない。刀と拵がそろってこそ、重文で名物の「安宅切」だろう。

名物「岩切海部」。

海部氏吉の在銘作。名前の由来は、この刀で岩を切ったとされることから。三好長慶の愛刀を経た、黒田家に伝来。

国宝、名物「日光一文字」。



このように、刀剣類だけでもいろいろあるのです。ですから、他の展示品も含めて、相当地面白く感じます。(持田真宏)

三井記念美術館

「超絶技巧! 明治工芸の粋」に息をのむ

学生時代、友人たちと集まってよく軽音楽の寸評をした。複雑怪奇なドラム、指何本あるの? と聞きたくなるピアノや弦楽器。圧倒的な演奏技術を突き付けられ、それにひれ伏したいという気持ち、若者らしく誰もが持っていたと思う。

「まだできる、でもやらない」というような余裕のある演奏を聴いても「バイト代で買ったレコードはクルクル回っているんだぜ。もっと音をたたくさん入れてくれ、ケチー」ということになる。

しかし歳を重ね、古い友人たちと集まった折に速弾きの必殺技連発のそれらを再び聴くと、「なんか聴いていて疲れるよな」と苦勞している演奏家さまに、実に勝手な言い分となる。そこで導き出される、少しだけ大人になったわれわれの結論は、「バカテクミュージシャンは自分の技に溺れるテク馬鹿になるんだな」という、かなりの失礼なものだった。

こんな昔のことを思い出したのには訳がある。最近、展覧会でバカテクを突き付けられたのだ。「超絶技巧」とのサブタイトルの付いた展覧会が四月十九日から七月十三日まで、日本橋の三井記念美術館であった。誰が見てもその凄さがわかるという、名実ともに直球勝負の展覧会だ。われわれ



この展覧会は追加公演…じゃなかった、佐野美術館にも回ることに内定している(十月四日〜十二月二十三日)。(綱取譲一)

03 海外通

Exiting San Francisco Japanese Sword Show

八月一日から八月三日まで、アメリカのサンフランシスコ・マリットホテル大会議室にてサンフランシスコ刀剣会が開催され、大変多くの愛好家やディーラーで賑わっていた。

参加した日本刀専門ディーラーは全米だけでなく、オーストラリア、ヨーロッパ、南アフリカなど、まさに世界規模とも言え、その数、約八十店舗。また個人コレクターも自由に展

示したり、他のコレクターと愛玩品を交換したりもできるため、展示スペースであるテーブル数は百三十台超にも及ぶ大規模で活気のある会であった。

このSF(サンフランシスコ)刀剣会の歴史は、今から二十五年ほど前に、北アメリカ刀剣倶楽部が主催して開催したのが始まり。今年に入場者数が五百人を突破するなど、世界中の刀剣愛好家の関心の高さと成長がうかがえる。

北アメリカ刀剣倶楽部の関係者は、SF刀剣会はいくつもあり、より良い品に出会い、また学ぶことによって本当の日本刀の文化を理解してもらいたい、また日本の専門業者にも数多く参加していただき、世界規模での交流が活発になることを願っている、と熱い思いを語った。

そして業者だけでなく、日本の愛好家にも、SF刀剣会に気軽に参加してほしいとのことであった。同じ日本刀文化を愛する者同士、言語は違



盛況だったサンフランシスコ刀剣会

もののふの美と心 八代城主・松井家の刀剣と刀装具

肥後細川藩の筆頭家老で八代城を預かった松井家には、中世以来の名刀が多数伝えられています。その特徴は、実戦に適した「用の

美」を備えたものが多いということとです。また、刀身を収める刀装具は、肥後金工による装飾金具を用いた肥後拵。茶人細川三斎の好みを伝える侘びた趣が、全国の刀剣ファンをうならせます。

本展覧会は、一般財団法人松井文庫が所蔵する刀剣・刀装具の全貌を、初めて八代で紹介するものです。同時に、松井文庫設立三十



周年を記念して、秀吉や家康など天下人から拝領した松井家伝来の家宝、松井家と関わり深い宮本武蔵ゆかりの品々も併せて展示します。

会期：十月二十四日(金)〜十一月三十日(日)
会場：八代市立博物館未来の森ミュージアム 〒866-0863 熊本県八代市西松江城町二一三五 ☎〇九六五-三四一五五五

えど、きつと語り合えるはずだ、とも夢を語っている。日本の愛好家がアメリカまで来られる際は、入場料は頂きません、と気前のいい話もありました。

個人的に感想を述べるとすれば、われわれ日本人は先人の研究資料や作品、諸先生の著した書籍などに手軽に触れることができるが、海外の愛好家は言葉の壁もあって刀剣学研究にも困難が伴い、ほぼ独学の方が多く、自分の手の届く範囲の刀剣・刀装具との縁のみを頼りに研鑽しているように見受けられた。

だからこそ、愛好家同士の交流を大事にし、知識や経験、意見などを交換し、研究し合うことで、自分の眼を養っているのが実情である。若輩の私にも意見を求め、謙虚に学ぼうとする姿勢には、頭の下がる思いがする。私自身、より一層の努力・経験をし、自分を磨き、責任のある知識をお伝えしなければならぬと、身の引き締まる思いで帰国しました。

温かく迎えていただいた、北アメリカ刀剣倶楽部の皆さま、懇談に参加してくださった愛好家の皆さまに感謝申し上げます。
Thank you very much dear all the Japanese sword lovers.
(玉山真敏)

催事情報

星と森の詩美術館

〒948-0101 新潟県十日町市稲葉1099-1 ☎025-752-7202

宮入行平・天田昭次～現代刀を極めた兄弟弟子～

昨年、生誕100年を迎えた人間国宝宮入行平(1913-77)と、惜しくも昨年85歳で逝去された同じく人間国宝天田昭次(1927-2013)の2人展を開催します。

昭和15年、栗原彦三郎(1879-1954)主宰の日本刀鍛錬伝習所で兄弟弟子となった2人は、太平洋戦争下の激動の時代を生き抜き、戦後の「刀狩り」時代から「美術刀剣」として復活した日本刀に真摯に向き合い、その振興に努めました。一回り以上の年齢差がありましたが、互いを認め合い、実の兄弟のような親交は生涯続いたといえます。

今展では、宮入・天田両師の秀作併せて12口と資料を展覧します。
会期：8月1日(金)～9月28日(日) 火

曜休館

- ◆9月14日(日)宮入小左衛門行平刀匠によるギャラリートーク
- ◆9月15日(月・祝)銘切り実演



日本刀鍛錬伝習所にて昭和16年4月撮影。左から天田昭次、若林昭寿、近藤昭国、宮入昭平(後の行平)、飯沼昭俊(坂城町鉄の展示館提供)

毛利博物館

〒747-0023 山口県防府市多々良1-15-1 ☎0835-22-0001

毛利家と幕末・維新―大河ドラマ「花燃ゆ」の時代背景―

毛利博物館では、8月16日(土)から平成27年12月21日(月)まで、テーマ展「毛利家と幕末・維新―大河ドラマ『花燃ゆ』の時代背景―」を開催します。

このテーマ展は、江戸時代最後の25年間、危急を迎えた毛利家がいかに難局を乗り切り、明治維新を成し遂げたのか、8つのテーマに沿って所蔵の重要な史料を公開し、紹介する試みです。

8つのテーマとそれぞれの開催日程は次の通り。

- 第1幕「プロローグ：斉熙・斉元・斉広三代―天保改革の歴史的前提―」26年8月16日(土)～10月5日(日)
- 第2幕「毛利敬親と天保改革・文

武興隆」26年10月10日(金)～12月14日(日)

- 第3幕「ペリー来航から戊午の密勅へ」27年1月1日(木)～3月1日(日)
- 第4幕「文久2年の藩是転換と山口移鎮」27年3月6日(金)～4月19日(日)
- 第5幕「攘夷戦と8月18日の政変」27年4月24日(金)～6月7日(日)
- 第6幕「元治元年 禁門の変」27年6月12日(金)～8月16日(日)
- 第7幕「四境戦争と討幕の密勅」27年8月21日(金)～10月18日(日)
- 第8幕「エピローグ：明治維新」27年10月23日(金)～12月21日(月)

大阪城天守閣

〒540-0002 大阪府中央区大阪城1-1 ☎06-6941-3044

大坂の陣400年プロジェクト

慶長3年(1598)8月18日に豊臣秀吉が亡くなると、豊臣政権内部の対立が激化し、同5年9月15日には関ヶ原合戦が起こり、徳川家康率いる東軍と石田三成ら西軍が激突。この合戦に勝利した徳川家康は同8年2月12日に征夷大将軍に任ぜられ、江戸に幕府を開きます。

けれども、大坂城には秀吉の遺児豊臣秀頼が母淀殿とともにいまだ健在で、徳川家をしのぐ権威を保持したまま君臨していました。この豊臣家と徳川家という二大権力の最終決着戦となり、戦国時代最後の合戦となったのが「大坂の陣」で、慶長19年10～12月には「大坂冬の陣」、翌20年5月には「大坂夏の陣」が起こり、20年5月7日に大坂城は落城し、翌8日、秀頼・淀殿が自害して豊臣家は滅亡しました。

平成26年は「大坂冬の陣」から400年、翌27年は「大坂夏の陣」から400年という節目を迎えることから、大阪城天守閣ではこの両年を「大坂の陣400年」イヤーと位置づけ、展覧会をはじめとするさまざまな事業を通じて、秀吉没後の豊臣家や「大坂の陣」について理解を深める機会にするとともに、多くの方々に大阪

城、さらには大阪市内・府下各所に存在する大坂の陣ゆかりの地へと足をお運びいただき、広く大阪の歴史や魅力に触れていただく機会にしたいと思っています。

〈夏の展示「戦争と平和」〉

100年以上も続いた戦国時代には、全国各地で無数の合戦が起こりました。鉄砲が導入され、甲冑は進化し、戦いの技術が向上しました。一方、合戦を終わらせるための、和平の技術が磨かれたのもこの時代です。「合戦と平和の戦国史」を収蔵資料を通してご覧いただきます。

会期：7月18日(金)～10月8日(水)
〈常設展「豊臣秀吉～波瀾万丈の生涯」〉

豊臣秀吉は一介の農民の出でありながら、織田信長にその才能を認められて、めきめきと頭角を現しました。本能寺の変で信長が非業の死を遂げたあとは、すぐさま山崎合戦で主君信長の仇を報じ、その遺志を継いで、天下統一の覇業を成し遂げました。

今回の展示では、この秀吉の波瀾万丈の生涯を大阪城天守閣収蔵資料でたどります。

会期：7月19日(土)～10月9日(木)

正宗賞受賞記念「刀匠 河内國平展」
会期：10月7日(火)～10月13日(月)
会場：虎屋 京都ギャラリー

問い合わせ先：
虎屋 文化事業課＝京都市上京区一条通烏丸西入 ☎075-431-4736

大阪歴史博物館

〒540-0008 大阪府中央区大手前4-1-32 ☎06-6946-5728
http://www.mus-his.city.osaka.jp/

―現代刀匠二番勝負― お守り刀展覧会 × 二次元 vs 日本刀展

現代刀匠たちは、伝統工芸の技を未来へ伝え継ぐための活動を近年、積極的に行っています。本展覧会は、伝統と革新という2つの柱を「お守り刀展覧会」と「二次元vs日本刀展」という2つの企画で構成することにより、日本刀の現在・未来像を提示しようというものです。

「お守り刀展覧会」は、日本刀の精神性である「加護を願う心」を伝統的製作技術により具現化したコンクールで、全国の刀匠が年に一度、寸法の限られた作品で出来映えを競うものです。今回で9回目を迎える本展では、専門の審査員による賞に加え、市民の投票結果により賞を授与することを新たな試みとし、より開かれた展覧会を目指します。

一方、「二次元vs日本刀展」は、現代の二次元アートや現代小説と、刀剣との融合にチャレンジする実験的企画です。この展示では、普段交わることのない現代刀匠とイラストレーターや小説家などが、お互いに刺激し合う中で創造された作品を展示することで、新しい物語を持った

新世代日本刀のあり方を示します。

本展覧会では上記2企画を一体的に展示することで、未来志向の現代刀匠たちの「今」と、伝統を継承することの視座を広く紹介します。

会期：11月1日(土)～12月23日(火・祝) 火曜休館、ただし12月23日(火・祝)は開館

〈会期中のイベント〉

- ①市民審査員賞の投票11月1～30日 発表12月3日
- ②お守り刀ファッションショー 11月1日・2日
- ③記念フォーラム「日本刀の生き残りを懸けて」11月29日13時～、要事前申し込み



前回のお守り刀ファッションショー

日光東照宮

〒321-1431 栃木県日光市山内2301

〔日光東照宮と江戸文化を結ぶ〕伝統的工芸品展

来年、式年400年祭を迎える日光東照宮を舞台に、伝統的工芸品の展覧会が行われる。東照宮に歴史的に縁の深い栃木県・北関東の伝統的工芸品と、東照宮を生み出した江戸文化に縁のある伝統的工芸品を紹介するというもの。

伝統工芸品の展示と販売、工芸士の実演のほかに、来場者の体験コーナーも設けられる。

会期：10月22日(水)～28日(火)

なお、25～27日の午後には、研師佐々木卓史氏と一門による研磨の公開実演が予定されている。

東京国立近代美術館

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1
展覧会・開館時間などに関するお問い合わせ ☎03-5777-8600 (ハローダイヤル、8時～22時)

菱田春草展

菱田春草(1874-1911)は日本近代で最も魅力的な画家の一人です。

春草は草創期の東京美術学校を卒業後、岡倉覚三(天心)の日本美術院創立に参加、いわゆる「朦朧体」の試みや、晩年の装飾的な画風によって、それまでの「日本画」を色彩の絵画へと変貌させました。

生誕140年を記念して開催する本展では、「落葉(おちば)」連作5点すべてに加え、「黒き猫」をはじめとするさまざまな「猫作品」や、新出作品などを含む100点を超える作品を、最新の研究成果とともにご紹介します。

〈展覧会構成〉

- 1章：東京美術学校の時代
- 2章：日本美術院の時代



3章：外遊、そして五浦へ
4章：代々木の時代

会期：9月23日(火・祝)～11月3日(月・祝) 〈映画「天心」同時上映のご案内〉

本紙前号でも紹介した映画「天心」が上映されます。春草をはじめ、横山大観・下村観山・木村武山らの若き群像が、岡倉天心とともに生き生きと映像化されており、展覧と併せて鑑賞されることをお勧めします。

会場：東京国立近代美術館地下講堂
会期：9月23日(火・祝)～25日(木)

10月15日(水)～19日(日)

開演：9月23日①12：30②15：30
9月24～25日、10月15～19日

①10：30②13：00③15：30
※入場整理券を当日10時より配布。

